

6. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

農学部では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成し、ローカルマインドとグローバルマインド双方を併せ持った農学ジェネラリティを兼備し、我が国の持続可能な農林水産業の発展と地域課題解決に貢献し、主体性・積極性を醸成し、新時代を自ら切り拓き、地域及び国内外で活躍できる『農学ジェネラリティをもった実践型スペシャリスト』人材を輩出するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目、課題発見科目と未来共創科目を設置する。
2. 農学ジェネラリティ（農学総合知識）涵養の視点から学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、必修専門科目、選択専門科目を設置する。
4. 数理データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルの知識を学ぶための専門科目を設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 実践力・応用力を育成するため、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業研究等の科目を設置する。

【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。
4. 学位授与方針に基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。

農学科

農学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 広い知識を身に付け、自主的・総合的に考える力を養うため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー）、英語、課題発見科目を設置する。
3. 農学総合知識（農学ジェネラリティ）を涵養するため、学部共通科目と学科共通科目を設置する。
4. 農学専門知識（スペシャリティ）を体系的に学ぶため、必修専門科目、選択専門科目を設置す

る。

5. 数理データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルの知識を学ぶための専門科目を設置する。
6. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
7. 実践力・応用力を育成するため、フィールドにおける実践型教育科目や地域の理解と課題解決に取り組む科目等を設置する。
8. 専門分野に関わる倫理観を涵養する科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業研究等の科目を設置する。

【教育の内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目、未来共創科目において、必要に応じてアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況についてエビデンスを持って指導・説明できるよう学修成果の可視化を行う。

獣医学科

獣医学科では、獣医学科ディプロマ・ポリシーで定められた教育を実践するため、農学部教育課程編成および実施の方針に従って、次の通りに教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成するため、農学部教育課程編成の方針に従って、教養教育カリキュラムを設置する。
2. 生命科学や農業、数理データサイエンス等に関する基盤知識を修得するため、農学部教育課程編成の方針に従って、学部共通科目を設置する。
3. 獣医師としての専門的知識と技能を修得するため、獣医学モデル・コア・カリキュラムに沿って、以下の科目を設置する。

- 1) 獣医師の社会的役割を理解し、健全な倫理観を養うための科目
 - 2) 動物に係る法規や動物福祉に関する知識を修得するための科目
 - 3) 動物の体のしくみや機能を、正しく理解するための科目
 - 4) 動物の病気のなりたちや感染症を、正しく理解するための科目
 - 5) 公衆衛生や動物の衛生管理、繁殖に関する知識と技能を修得するための科目
 - 6) 病気の診断・治療・予防に関する知識や技能を修得するための科目
 - 7) それまでに修得した基礎知識や技能を実践できるようになるための科目
4. 社会の一員としての総合的な能力と社会貢献を実践するために必要な能力を涵養するため、以下の科目を設置する。
- 1) 専門分野における語学力や国際性を養うため、英語を用いた科目を設置する。
 - 2) 数理データサイエンスを用いた情報分析力、洞察力、課題探求力、論理的思考力、自己表現力、寛容性など実践的な能力を養うための科目を設置する。
 - 3) 学生自身の興味関心に基づいて、獣医学における先端的概念や、より高度な知識や技能を主体的に学び、専門性を高めるための科目を設置する。
 - 4) 産業動物分野や公衆衛生分野など、地域社会から要請の高い領域に関して、より実践的な能力を養うため、地域行政と連携した科目を設置する。
 - 5) 生命科学研究の社会的意義を理解し、その実践を通して、探究心や主体性、計画性、協調性を養うための科目を設置する。

【教育の内容・方法】

1. 教養教育カリキュラム、学部共通科目は、農学部教育課程実施の方針に従って行う。
2. 専門科目においても、ICT やアクティブラーニングの導入など農学部教育課程実施の方針に従って行う。
3. 知識や技能だけに囚われず、主体性、寛容性、社会貢献意欲を涵養するための工夫を行う。
4. 実践的な能力を養うため、数理データサイエンスを用いた情報分析力、洞察力、課題探求力、論理的思考力、自己表現力を涵養するための工夫を行う。
5. 宮崎県の特性を活かした実践型の獣医学教育を実施するため、地域との連携を図る。
6. 本学の特徴を活かした分野横断的かつ先端的な獣医学教育を実施するため、学内組織との連携を図る。

【学修成果の評価】

- 学修成果の評価は、農学部教育課程実施の方針に従って行う。